平成２０年度西海ブロック水産業関係研究開発推進会議
有明海・八代海研究部会報告書

会議責任者	西海区水産研究所長

１．開催日時・場所　　日時：平成２０年１１月６日（木）　13:30～17:30
　　場所：西海区水産研究所　大会議室
２．出席機関数及び人数　　６機関　３１名
３．結果の概要

議　題	結果の概要
１．開会	西海区水産研究所有明海･八代海漁場環境研究センター長が開会を宣言した。
２．挨拶	主催者として西海区水産研究所長が､最近の科学技術政策や今年の有明海・八代海のトピックス等の報告を含む挨拶を行った。
３．座長選出	西海区水産研究所海区水産業研究部長を座長に選出した。
４．議事 １）有明海・八代海を巡る最近の情勢	各機関から、資料に基づいて最近の情勢報告があった。 福岡県からは、海水温が平年よりも高めなこと、貧酸素水塊が広範囲で発生したこと、ノリは史上２番目に遅い採苗となったことなどが報告された。 佐賀県からは、ノリ採苗後の水温低下が遅いこと、主要魚介類資源が依然として低水準であることなどが報告された。 長崎県からは､赤潮や貧酸素水塊が発生したこと､タイラギ稚貝が例年よりも多かったことなどが報告された。 熊本県からは､八代海でシャトネラ赤潮による漁業被害があったこと、クルマエビは前年よりも多いが例年よりも少ないこと、アサリは昨年並みであることなどが報告された。 鹿児島県からは､シャトネラ赤潮による養殖ブリへの被害が出たことなどが報告された。 当所からは、平成１９年１１月５日以降の社会情勢、当所の活動内容や今後の取り組み等について、資料に基づいて説明を行った。 引き続き行われた質疑では、「アサリの垂下養殖」および「シャトネラ赤潮とガザミの漁獲増との関係」について質問があり、関係県から、アサリについてはフジツボの付着がみられたものの貧酸素水塊による影響はないこと、ガザミについては赤潮が発生しても今年の漁獲量は多かったとの回答があった。

議　題	結果の概要
２）研究会報告 ①特産二枚貝増産研究会 ②粘質状浮遊物研究会 ③その他の活動	資源培養研究室長より、５月２３日に開催された第一回研究会の概要を報告したほか、２月には第二回研究会の開催を予定している旨の説明があった。 漁場環境研究科長より、９月１１日に開催された第一回研究会の概要を報告した。 有明海・八代海漁場環境研究センター長より、第一回および第二回の「有明海におけるカキ等貝類増養殖の多面的機能と将来展望に関する学習会」のほか、第二回有明海における魚介類へい死に関する検討会議及び日本水産工学会と共催したシンポジウム「九州西部の二枚貝漁場における環境修復と漁場造成」に関する概要を報告した。 浅海増養殖研究科長より、第一回ノリ種判別技術講習会の概要を説明した。
３）成果の公表及びその利用	各県より、海況速報やノリ養殖情報、赤潮情報、貧酸素情報等の提供を行っている旨の報告があったほか、佐賀県においては県が公表している情報を民間企業が利用して有料の情報提供サービスを行う予定であることが報告された。また、鹿児島県においては熊本県との連携及び東町漁協の協力の下に八代海の赤潮に関する情報提供を行っているほか、ホームページ上で研究の動きを公開しており、週１回を目安に更新している旨の説明があった。 漁場環境研究科長より、「有明海域干潟等環境データベース」及び「有明海水質環境データベースの構築」に関する説明があった。１）水質環境データベースの八代海への拡張の可能性、２）同データベースの利用と公開、３）有明海域干潟等環境データベースの利用と公開に関する質問があり、漁場環境研究科長が１）八代海等への適用は可能、２）当面、事業の共同実施機関内で利用、３）事業の検討委員会による覚え書きで運用していると回答した。
４)今後の共同調査研究	有明海・八代海漁場環境研究センター長より、平成１９年度提案に対する対応結果の提案を行い、了承された。引き続き、同センター長より平成２０年度提案への対応方針（案）の説明があり、質疑を行った。 タイラギに関する対応方針（案）に対して、へい死要因の絞り込みの妥当性や養殖技術開発における今後に残された課題に関する質疑があった。タイラギのへい死要因については多面的に検討するものの、硫化水素の影響に重点をおいて調査研究を継続すること、養殖技術開発については、残された課題としては種苗の確保

議　題	結果の概要
	やコストの削減等があることを説明した。 　なお、「海洋環境モニタリング」への対応方針（案）において、東シナ海海洋環境部長より、漁海況モニタリング定線の重要性のアピールに関する提案があった。アピールの必要性は認めるものの、漁場等に関する詳細情報をパンフレットに記述することについては検討を要するとの意見があり、他ブロックの取り組み等を参考にしてご理解とご協力をいただくよう説明した。本件については、漁業資源・海洋環境部会において、引き続き協議していくこととした。
５．その他	有明海・八代海漁場環境研究センター長より、１２月５日に開催される第三回「有明海におけるカキ等貝類増養殖の多面的機能と将来展望に関する学習会」の開催案内があった。
６．閉会	西海区水産研究所有明海･八代海漁場環境研究センター長が閉会を宣言した。